


カナダ		首都	オタワ																						
	<p>両側の赤い帯は太平洋と大西洋で、中央のメイプルリーフがカナダを象徴する。葉の先端の尖った部分と枝を合わせた12の数は、国を構成する10州と2準州を表している。(現在は10州と3準州)</p> <p>独立：1867/7/1 英連邦内で自治領成立 1931 主権獲得 国連加盟：1945/11/9 政体：立憲君主制</p>	国土	面積 997万1,000 km ² (日本の27倍) 北米大陸の北半分を占め、ロシアに次ぐ世界第2位の国土面積を誇る。西部は環太平洋造山帯の一部をなすカナディアンロッキー山脈、中部はローレンシア台地と内陸平原(グレートプレーンズ)がひろがり、東部は大森林に覆われる低平なラブラドル高地である。北部は北極海に臨む多島海である。																						
		人口	3,260万人																						
教育制度の概要		言語	英語(公用語)、仏語(公用語)																						
		通貨	カナダ・ドル																						
		気候	国土の5分の2は北緯 60℃以上のツンドラ気候、以南は寒冷なタイガ気候で冬の寒さは厳しい。太平洋南部は温かな西岸海洋性気候、大西洋南部もメキシコ湾流の影響で寒流と接するため霧が多発する。																						
		民族	イギリス系 45%、フランス系 29%、ドイツ系 6%、イタリア系 3%、中国系 2%、イヌイット																						
		宗教	カトリック 42%、プロテスタント 40%																						
<p>学校体系</p>		<p>・連邦内で統一された教育制度はない。州及び準州の自治に委ねられている。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>履修年度</th> <th>対象州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・6・3・3</td> <td>ニューファンドランド・ラブラドール</td> </tr> <tr> <td>1・5・3・3</td> <td>ニューブラウンズウィック</td> </tr> <tr> <td>7・3・3・3</td> <td>ノバスコシア</td> </tr> <tr> <td>1・7・5・(2, 4)</td> <td>ブリティッシュ・コロンビア</td> </tr> <tr> <td>8・4・4</td> <td>オンタリオ、マニトバ</td> </tr> <tr> <td>6・2・4・4</td> <td>オンタリオ(オタワ・カールトン)</td> </tr> <tr> <td>7・3・3</td> <td>アルバータ</td> </tr> <tr> <td>6・5・2・3</td> <td>ケベック</td> </tr> <tr> <td>6・3・3・3</td> <td>プリンスエドワードアイランド</td> </tr> <tr> <td>9・3・4</td> <td>サスカチュワン</td> </tr> </tbody> </table> <p>・公立校(パブリックスクール)と私立寮制学校(ボーディングスクール)がある。95%はパブリックスクールである。</p>		履修年度	対象州	1・6・3・3	ニューファンドランド・ラブラドール	1・5・3・3	ニューブラウンズウィック	7・3・3・3	ノバスコシア	1・7・5・(2, 4)	ブリティッシュ・コロンビア	8・4・4	オンタリオ、マニトバ	6・2・4・4	オンタリオ(オタワ・カールトン)	7・3・3	アルバータ	6・5・2・3	ケベック	6・3・3・3	プリンスエドワードアイランド	9・3・4	サスカチュワン
履修年度	対象州																								
1・6・3・3	ニューファンドランド・ラブラドール																								
1・5・3・3	ニューブラウンズウィック																								
7・3・3・3	ノバスコシア																								
1・7・5・(2, 4)	ブリティッシュ・コロンビア																								
8・4・4	オンタリオ、マニトバ																								
6・2・4・4	オンタリオ(オタワ・カールトン)																								
7・3・3	アルバータ																								
6・5・2・3	ケベック																								
6・3・3・3	プリンスエドワードアイランド																								
9・3・4	サスカチュワン																								

<p>義務教育</p>	<p>・ 州によって様々である。</p> <table border="1" data-bbox="603 315 1359 757"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 315 807 360">義務教育期間</th> <th data-bbox="807 315 1359 360">対象州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 360 807 461">5 歳～16 歳</td> <td data-bbox="807 360 1359 461">ニューファンドランド・ラブラドール ノバスコシア</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 461 807 506">5 歳～17 歳</td> <td data-bbox="807 461 1359 506">ブリティッシュ・コロンビア</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 506 807 551">5 歳～18 歳</td> <td data-bbox="807 506 1359 551">ニューブラウンズウィック</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 551 807 595">6 歳～16 歳</td> <td data-bbox="807 551 1359 595">ケベック、アルバータ、オンタリオ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 595 807 640">6 歳～18 歳</td> <td data-bbox="807 595 1359 640">オンタリオ（オタワ・カールトン）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 640 807 685">7 歳～16 歳</td> <td data-bbox="807 640 1359 685">サスカチュワン、マニトバ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 685 807 757">7 歳～18 歳</td> <td data-bbox="807 685 1359 757">プリンスエドワードアイランド</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 公立の授業料は無料である。</p>	義務教育期間	対象州	5 歳～16 歳	ニューファンドランド・ラブラドール ノバスコシア	5 歳～17 歳	ブリティッシュ・コロンビア	5 歳～18 歳	ニューブラウンズウィック	6 歳～16 歳	ケベック、アルバータ、オンタリオ	6 歳～18 歳	オンタリオ（オタワ・カールトン）	7 歳～16 歳	サスカチュワン、マニトバ	7 歳～18 歳	プリンスエドワードアイランド
義務教育期間	対象州																
5 歳～16 歳	ニューファンドランド・ラブラドール ノバスコシア																
5 歳～17 歳	ブリティッシュ・コロンビア																
5 歳～18 歳	ニューブラウンズウィック																
6 歳～16 歳	ケベック、アルバータ、オンタリオ																
6 歳～18 歳	オンタリオ（オタワ・カールトン）																
7 歳～16 歳	サスカチュワン、マニトバ																
7 歳～18 歳	プリンスエドワードアイランド																
<p>日本と比較した 教育課程上の特徴</p>	<p>・ パブリックスクールはカナダ国民に広く教育を提供することを目的としているため、各州の教育省のもと、学区内の教育省が管理・運営を行っており、学校格差はほとんどない。</p> <p>・ ボーディングスクールは、宗教団体や民間団体が運営しており、個性もさまざま、理系に強い学校、文系に強い学校、芸術に強い学校など、バラエティーに富んでいる。カリキュラムはアカデミックな科目を中心に構成されているが、進学準備に力を注ぐ一方で、新しい試みも忘れずに、国際的、多文化的な教育展開を行っている。</p> <p>・ 学校年度は、9 月～6 月である。</p> <p>・ 学期制については、州によって様々である。</p> <table border="1" data-bbox="603 1335 1359 1765"> <thead> <tr> <th data-bbox="603 1335 783 1379">学期制</th> <th data-bbox="783 1335 1359 1379">対象州</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="603 1379 783 1424">学期制なし</td> <td data-bbox="783 1379 1359 1424">ノバスコシア（小・中）</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1424 783 1525">1 学期制</td> <td data-bbox="783 1424 1359 1525">サスカチュワン、アルバータ、ニューファンドランド・ラブラドール</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1525 783 1715">2 学期制</td> <td data-bbox="783 1525 1359 1715">ノバスコシア（高校）、プリンスエドワードアイランド、マニトバ、オンタリオ（オタワ・カールトン）、ケベック、ニューブラウンズウィック、</td> </tr> <tr> <td data-bbox="603 1715 783 1765">3 学期制</td> <td data-bbox="783 1715 1359 1765">オンタリオ、ブリティッシュコロンビア</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ Year Round School では、学期制があるところと無いところがある。</p> <p>・ 初等教育では、語学、算数などのほかに、生徒の批評力と分析能力の発達を促すため、メディア・リテラシーの訓練などの授業も行われる。</p>	学期制	対象州	学期制なし	ノバスコシア（小・中）	1 学期制	サスカチュワン、アルバータ、ニューファンドランド・ラブラドール	2 学期制	ノバスコシア（高校）、プリンスエドワードアイランド、マニトバ、オンタリオ（オタワ・カールトン）、ケベック、ニューブラウンズウィック、	3 学期制	オンタリオ、ブリティッシュコロンビア						
学期制	対象州																
学期制なし	ノバスコシア（小・中）																
1 学期制	サスカチュワン、アルバータ、ニューファンドランド・ラブラドール																
2 学期制	ノバスコシア（高校）、プリンスエドワードアイランド、マニトバ、オンタリオ（オタワ・カールトン）、ケベック、ニューブラウンズウィック、																
3 学期制	オンタリオ、ブリティッシュコロンビア																

		<ul style="list-style-type: none"> ・オタワにある高校では、授業は月曜日から金曜日の午前 9 時 15 分から午後 3 時までで、英語、フランス語、数学、化学、ボランティアが必修科目であり、10 学年から選択可能な日本語の授業では、日本での 2 週間程度のホームステイが実施されている。
	義務教育後の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・高校のプログラムは 2 つに分けられ、1 つは大学進学のための授業、もうひとつはコミュニティ・カレッジや技術専門学校への進学又は就職に備えるための授業となっている。 ・専門技術学校（1～3 年）、短期大学、大学（4 年）がある。大学に入学するためには、統一仏語試験（DEC）に合格する必要がある。
	就学前教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの州で初等学校入学の前に 1 年間の幼稚園課程がある。オンタリオ州とケベック州では 2 年間、サスカチュワン州では 3 年間である。 ・幼稚園が義務教育の州とそうでない州がある。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューブランズウィック州では、身障者教育についても力をいれており、健常者と同じ学校・教室でともに学ぶ工夫がされ、それを実現するために教師をサポートするスタッフが常勤している。 ・保護者は、子どもに受けさせたい教育内容の希望を表明し学校を選択できる。学校以外の場所で、子どもに合った教育が受けさせられると判断すれば、義務教育修了前において通学免除を許可されることがある。 ・外国人に対する言語特別指導として、ESL コースがある。
学 校 生 活	休業期間	<ul style="list-style-type: none"> ・州によって違うが、クリスマス休暇が 2 週間、7～8 月の夏休みが 2 カ月、春休みが約 2 週間ある。
	飛び級、落第の有無	<ul style="list-style-type: none"> ・早く進歩する生徒には、飛び級などで対応する。
	給食	<ul style="list-style-type: none"> ・昼食は持参する。カフェテリアや売店があり、昼食を購入することもできる。
	教室における行動様式等の違い	<ul style="list-style-type: none"> ・授業形態はアメリカに非常に似ており、ディスカッションが中心である。各生徒は、学年はじめに自分でカリキュラムを組み、自分が選んだ科目の教室に移動して授業を受ける。学習意欲のある生徒に対しては、非常に熱心に指導するが、学習意欲を欠いた生徒には落第や退学などの厳しい処置をとることがある。
	校則	<ul style="list-style-type: none"> ・オタワの高校では、制服や校則はなく、生徒の自主性を重

		んじ、生徒と教師の信頼関係に基づいた学校運営がされているが、教師がいない時には教室へ入れないなどの厳しいルールもある。
	子どもの一日	・スクールバスで通学する州が多い。
	その他	・学校内における教室外の責任は全て校長にある。生徒の家庭・風紀や教師の採用から配置、学級の編成、生徒の配置まで行う。 ・教室内のことは、担任教師の責任であるが、教室外のことは責任外である。生徒は個人として尊重され、評価される。それぞれの個性に合わせて後退せずに進歩できればよいと考えられている。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・英語はカナダ全土で使用されている。フランス語はケベック州全域、オンタリオ北部のケベックに隣接している地域、マニトバ州の一部、ニュー・ブランズウィックの北東部などの限られた地域で使用されている。 ・日本語の学習では、英語が母語の場合、「ウ」の発音が巻き舌になってしまい、フランス語が母語の場合は「ハ行」の子音が脱落してしまうことがある。

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の学校を見てみよう！（キッズ外務省）・・・・・・・・外務省
- ・世界の国旗図鑑・・・・・・・・・・・・・・・・平凡社
- ・教育事情（カナダ）・・・・・・・・・・・・・・・・海外職業訓練協会
- ・カナダの教育事情・・・・・・・・・・・・・・・・アルク